

網かけ		のところが紹介予約診療担当医です。					八戸市立市民病院（令和5年1月現在）	
担 当 科	診察室	月	火	水	木	金	備 考	
消 化 器 科 ・ 内 科	1	枡 悠太郎	佐藤 真広	高橋 貴一	佐藤 真広	佐藤 真広	(水)3番、14:00～15:00	
	2	岩崎 隆雄	岩崎 隆雄	岩崎 隆雄	枡 悠太郎	渡邊 健吾		
	3	荒井 壮	高橋 貴一	荒井 壮	高橋 貴一	荒井 壮		
	4	沖 元二	岡野 優一	沖 元二	沖 元二			
	5	赤坂 明日香	赤坂 明日香	枡 悠太郎	大学派遣医	赤坂 明日香		
内 分 泌 糖 尿 病 科 ・ 内 科	6	小野 翔真	小野 翔真	磯崎 文哉	小野 翔真	磯崎 文哉		
	7	森山 貴子	森山 貴子	森山 貴子	森山 貴子	森山 貴子		
	8	工藤 貴徳	工藤 貴徳	工藤 貴徳	工藤 貴徳	工藤 貴徳		
脳 神 経 内 科	9			大学派遣医		大学派遣医		
	10	木村 健介	奥島 敏美	奥島 敏美	木村 健介	奥島 敏美 大学派遣医		(金)10番、大学派遣医、第4週午後のみ (金)11番、大学派遣医、第1週午前のみ (火)(水)13:30～木村医師新患予約あり
循 環 器 科 ・ 内 科	11	田野崎 真人	田野崎 真人	田野崎 真人	田野崎 真人	木村 健介	(水)16番、午後、ペースメーカー外来	
	15		松井 宏光	松井 宏光 遠藤 知秀				
呼 吸 器 科 ・ 内 科	16	成田 憲紀 堀内 大輔	遠藤 知秀 成田 憲紀	堀内 大輔 堀内 大輔	堀内 大輔 成田 憲紀	松井 宏光 松井 宏光		
	12	二瓶 真由美				亀山 悠子		
呼 吸 器 科 ・ 内 科	13	安ヶ平 英夫	熊谷 美香	熊谷 美香	二瓶 真由美	安ヶ平 英夫		
	14	土橋 雅樹	奥村 文彦	亀山 悠子	土橋 雅樹	奥村 文彦		
総 合 診 療 科		坂本 拓矢	坂本 拓矢	坂本 拓矢	坂本 拓矢	坂本 拓矢		
漢 方 内 科			川村 強 河野 隼子	川村 強 河野 隼子	川村 強 河野 隼子		(木)10番、(午前)漢方外来・派遣医第3週のみ(第5週休診) (水)午後のみ	
外 科	1	水野 豊			水野 豊 高橋 道郎		(月)1番、午前のみ (火)3番、午前のみ (水)2番午前のみ	
	2	米内山 真之介		西村 隆一	青木 計規 青木 計規			
	3	中山 義人	佐藤 智行	上村 卓嗣	盛島 隼人	丸山 祥太		
	4	金井 哲史	西村 隆一	吉田 諭		吉田 諭		
乳 腺 外 科	1	金井 綾子	長谷川 善枝	長谷川 善枝		長谷川 善枝	(月)1番、午後から (水)1番、午後から	
	2		金井 綾子			金井 綾子		
血 管 外 科	1				大学派遣医		第2、4週午後のみ	
小 児 外 科	3		佐藤 智行				診療受付時間 13:30～15:30	
形 成 外 科	4		大学派遣医		大学派遣医		(火)14時～乳房再建のみ (木)午前のみ	
泌 尿 器 科	5	木村 信吾	佐藤 真彦	佐藤 真彦	(手術日)	佐藤 真彦	(火)午後、手術のため休診 (木)手術のため休診	
	6	高橋 諒	高橋 諒	木村 信吾		木村 信吾 高橋 諒		
心 臓 血 管 外 科	7		小野 裕逸	小野 裕逸	(手術日)			
	8	(手術日)	河原井 駿一	河原井 駿一				
			青木 哉志	青木 哉志				
呼 吸 器 外 科	7	三井 匡史	(手術日)	(手術日)	戸田 洋	(手術日)		
	8	戸田 洋			三井 匡史			
		小林 未来			藤林 立吉			
脳 神 経 外 科	9	佐藤 加奈子	(手術日)	佐藤 加奈子	(手術日)	佐藤 加奈子	(木)脳外手術日、9番(午後)第2、4週てんかん外来	
	10	鈴木 一郎	(手術日)	鈴木 一郎	(手術日)	鈴木 一郎		
整 形 外 科	11	田中 直	吉川 正和 荒木 亮	荒木 亮 田中 直	田中 直 吉川 正和	吉川 正和 荒木 亮	(月)12番午後、FLS外来 (金)13番午後、第4週のみ	
	12	石橋 義太	大石 裕誉	青木 重	石橋 義太	大石 裕誉		
	13	沼沢 拓也 沼沢 拓也		沼沢 拓也 沼沢 拓也	沼沢 拓也 沼沢 拓也			
歯 科 口 腔 外 科	1	榊 宏剛 長内 俊之	榊 宏剛 長内 俊之	榊 宏剛 長内 俊之	榊 宏剛 長内 俊之	榊 宏剛 長内 俊之	第3金曜日、専門外来(咬合異常・不正咬合) 火・水曜日、手術日	
産 婦 人 科	2	高橋 聡太	森 亘平	田中 宏典	國井 基恩 関根 優哉		(木)2番、午前のみ、園井医師・関根医師が交代わりで対応	
	3	田中 創太	吉田 瑠子	葛西 剛一郎	湊 敬道	葛西 亜希子		
	4	河野 順子	河野 順子	河野 順子	小丸 扶紗子	安藤 宏輔		
眼 科	5	青藤 桂子 木村 聡	青藤 桂子 木村 聡	青藤 桂子 木村 聡	青藤 桂子 木村 聡	青藤 桂子 木村 聡		
	6	橋本 礼	佐々木 都寛	佐々木 都寛	神経外来	橋本 峻		
小 児 科	7	金城 学	金城 学	金城 学	佐々木 都寛	金城 学	午後、専門外来(予約制)	
	8	差波 新	高橋 佑果	橋本 礼	三上 了右	差波 新		
		慢性外来 循環器外来	慢性外来 循環器外来	内分泌外来 予防接種	慢性外来 神経外来 支援外来	慢性外来 循環器外来 支援外来		
精 神 神 経 科	1	岩城 弘隆	岩城 弘隆	岩城 弘隆	岩城 弘隆	岩城 弘隆	(金)2番、偶数月、第1週のみ	
	2		吉田 恵心	吉田 恵心	吉田 恵心	大学派遣医		
	7	柞木田 なつみ	柞木田 なつみ	柞木田 なつみ	柞木田 なつみ	柞木田 なつみ		
耳 鼻 咽 喉 科		葛西 崇 三國谷 由貴 清水目 奈美	葛西 崇 三國谷 由貴 清水目 奈美		葛西 崇 三國谷 由貴 清水目 奈美	葛西 崇 三國谷 由貴 清水目 奈美	(水)手術日のため休診	
皮 膚 科	4			大学派遣医			(水)午後、脱毛外来(予約制) 予約のない方の受付は8:15～11:00まで	
	5	村井 孝弥	村井 孝弥	村井 孝弥	村井 孝弥	村井 孝弥		
放 射 線 科	6		松倉 弘明 松倉 理佳子		松倉 弘明 松倉 理佳子			
緩 和 医 療 科	6	細野 由希子		細野 由希子		細野 由希子	午前のみ	
救 命 救 急 科		野田暁 達也、今野 慎吾、鈴木 一郎、坂本 拓矢、葛西 孝健、赤坂 明日香、十倉 知久、木村 健介、吉村 有矢、近藤 英史、箕輪 啓太、後村 朋美、森仁志、大向 功祐、小野 文子、丸山 千晴、栗田 聖也、砂田 大貴、松浦 夏帆、亀山 拓永、田中 文華、貴和 亮太、石橋 伸幸、奥田 伸之輔、長沖 謙介						

紹介予約専用電話 **0178-72-5000**

* 紹介予約電話受付時間 **午前8:15～午後5:00**(土・日・祝日・年末年始は除く。)

* 休診日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)

医療機関の皆様へ

当院医師へご用の場合は**0178-72-5111(代)**へ、 急患室にご用の場合は、【電話】**0178-72-5104、【FAX】0178-72-5106**へお願いいたします。

八戸市立市民病院地域医療連携室だより 第 61 号



発行／令和 5 年 1 月吉日

八戸市立市民病院 地域医療連携室

〒031-8555 八戸市田向 3 丁目 1-1

電話 0178-72-5237 FAX 0178-72-5222

発行責任者／水野 豊

「新年のご挨拶」

副院長 兼 診療局長 兼 化学療法センター所長 兼 地域医療連携室長
水野 豊

新年明けましておめでとうございます。

昨年も相変わらず新型コロナの感染症が蔓延し、すっきりしない年でした。まさかコロナ禍が三年以上も続くなどとは誰も予想しなかったのではないのでしょうか。しかし、この間に保健所や各医療機関が地域一丸となってこの未知の感染症に対峙してきた結果、当初のパニックに近い状況から比べると、近頃は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるようです。世の中はウィズコロナにシフトしてきており、新型コロナの感染症法上の扱いも五類相当に変更されそうな動きがある中、今後各医療機関は各々の機能と役割分担を明確化し、より一層連携を深めていくことが求められると思われます。

この様な状況ではありますが、当院では今年コロナ禍以前から企画していた「患者サポートセンター」を一階の外来フロアに開設します。サポートセンターでは看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、医療事務等の多職種が一つのフロアで連携し、主に予定入院の患者さんを対象に、患者プロフィールの作成や入院前検査の確認、持参薬確認、栄養指導、入退院支援、地域医療連携、医療福祉や介護サービスの紹介、がん相談、医療費の相談や診断書の作成など、入院前から退院後まで切れ目のないサービスを行う予定です。これにより患者満足度の上昇、職員の負担軽減、地域医療連携の更なる円滑化、そして病院経営の改善に繋がることが期待されています。現在北棟の大会議室を間借りして患者サポートセンターを試行していますが、徐々に成果が上がってきており、スタッフ一同張り切って準備しています。ただ、当初は今年四月からの開始予定でしたが、残念ながら世界情勢の影響を受けて建築資材が不足し数カ月遅れる予定となってしまいました。開設までもう少しお待ちください。

また、来年四月には医師の働き方改革が本格始動し、勤務医の時間外労働の上限規制が適用されます。今年はその準備のための最終年になります。今後は勤務時間外に行っていた患者さんやご家族への説明、院内の会議などは極力時間内に行うようにしなければなりませんし、連続勤務時間の制限とその後の勤務間インターバルや代償休息が必要となります。これらの改革が患者さんへのサービスの低下や地域医療機関への負担増につながる事の無いように、準備して行きたいと思っています。

今年は癸卯（みずのと・う）の年です。この年は「これまでの努力が実を結び勢い良く成長し飛躍する年」と言われているそうです。皆さまにとってこの一年がこのような飛躍の年になることを祈っております。今年もどうぞよろしく願い申し上げます。

「悩み相談のプロによる一悶一灯」

精神神経科部長 兼 臨床研修センター医長 岩城 弘隆



2022 年 12 月 2 日(金)に株式会社トーチリレー代表取締役の神保拓也氏を講師として招き、「悩みを欲しがり、心に火を灯す。チームのモチベーションの上げ方」と題し院内特別講演会を行なった。本講演会について、背景となる経緯や内容について簡単に記載したい。

本講演会の講師である神保氏は、一言でいうと「悩み相談の改革者」である。氏は外資系コンサルティング会社を経て、ユニクロの親会社であるファーストリテイリングに入社。様々なメディアに危機的状況と評された物流の構造改革を実現し、その成果から 30 代半ばにして上席執行役員となった人物である。その改革の原点になったのが、部下・同僚・チームの悩みに向き合うことであった。氏はその経緯から、どんな人の悩み相談も無料で受ける株式会社トーチリレーを設立し、活動をしている。

医療現場において、患者から悩み相談を受ける機会は何の職種でも多く、また医療者間でも悩みは絶えない。個人の悩みに向きあう重要性は認知されつつも、実際にどのように向き合うかを教授される機会はない。私は精神科医だが、精神科ですらそんな機会は皆無である。悩みに向き合う姿勢を実際に体感してもらうことが、八戸市立市民病院の将来に役に立つ。神保氏の招聘に至ったのはそんな思いからであった。

今回の講演会は前半と後半に分けられ、前半は「悩みと向き合うときの基本姿勢」について講演をいただいた。「悩み相談は、自身の成長にも、組織の成長にもつながる」、神保氏はここで自身の経験を基に悩みに向き合う重要性を説明している。「悩みは一人では解決できない。一人ひとりに寄り添い、自分の言葉ではなく相手の悩みを主役にして、相手の悩みを自分事として捉え、相手以上に相手の悩みに向き合う」、神保氏は悩みと向き合う基本姿勢をこのように説明している。「同じ釜の飯を食う」という言葉があるように、「相手の悩みを自分も一緒に味わう」というスタンスで向き合うことで、相手の心を開いて火を灯せる可能性を広げる。それがチームの心に火が灯った原動力である。ユニクロを実際に改革した氏から語られたのは、一人ひとりの人に向き合う地道だが熱い言葉であった。

後半はいわゆる質疑応答だが、神保氏が参加者の悩みと一緒に向き合い、普段やられている悩み相談のエッセンスを用いて、一人ひとりの心に火を灯す実際に体験してもらう。氏はこれを「一悶一灯（いちもんいつとう）」と呼び、講演会のメインイベントとしている。今回は 2 人の研修医から「自分の未熟さ」に対する悩みと、「物欲が止まらない」悩みについて質問があった。神保氏の回答は確かに一人ひとりに寄り添うものであったが、会場にいた多くの聴衆が感銘を受けたのはむしろこの一悶一灯であった。

本講演会は今院長を含め 100 名近い参加があり、大盛況のうちに幕を閉じた。本講演に先立って、当初から支援をいただいた管理者の三浦先生、今院長、管理課の下野さんや看護師の大山師長・鈴木主幹には厚く御礼を申し上げる。本講演会を通じ、八戸市民病院内に悩み相談の輪が広がり、病院のみならず地域の心に灯すことができれば、と切に願っている。



神保 拓也講師



講演会の様子。院内職員 100 名弱が参加しました。

「がん診療に関する講演会」を開催しました

がん診療に関する講演会は、がん医療圏において顔の見える関係性を構築し、がん医療の質向上につながるよう、地域の診療従事者にご参加いただき開催しています。今年度は 11 月と 12 月に開催しました。

11 月 24 日開催の「がん高精度放射線治療の進歩」は真里谷靖先生をお招きし開催しました。先生は弘前大学大学院保健学研究科教授を務められ、青森市・弘前市・むつ市・盛岡市の病院に勤務、令和 2 年から青森労災病院副院長に就任されています。強度変調放射線治療や定位放射線治療、また免疫チェックポイント阻害薬との併用など、乳がん・肺がん・脳転移等の事例を紹介し、放射線療法の有用性をご講演されました。そして、脳転移への照射など当院と連携していきたい旨のお話をいただきました。

12 月 22 日「子宮がんの予防・ワクチンとがん検診、最近の動向」は伊藤潔先生をお招きし、ハイブリットで研修を開催しました。先生は八戸・十和田の病院に勤務、平成 24 年から東北大学大学院医学系研究科災害産婦人科学分野教授に就任されています。講演では来年度から無料で開始される 9 価 HPV ワクチンの紹介と共に、2010 年 67%だった接種率が 0.1%まで減少し、再び勧奨された現在も 10%程度の接種率に留まっている課題について話されました。また、東日本大震災・Covid-19 パンデミックなど、災害後に低下した検診率が回復しておらず、欧米では低下している子宮頸がんの死亡率が、日本では増加している現状について述べられました。

両講演には地域医療者を含む 50 名以上の方に参加して頂きました。来年度の講演も企画しますので、皆さんご参加ください。

地域医療連携室からアンケートのお願い

地域医療連携室で年 4 回発行している「わ」について、各医療機関の皆様にアンケートのご協力をいただきたく、アンケート用紙を同封いたしました。お忙しいとは存じますが、ご回答のほど、よろしくお願いいたします。